事　業　名　福島潟（ふくしまがた）自然生態園整備事業

福島潟の自然環境を保全し、新たな生態系の創造を目指すとともに、地域文化の創造拠点としての公園整備事業

受賞機関　豊栄市都市計画課
事業実施期間　平成4年4月1日～平成10年3月31日
事　業　費　5,900百万円

▷木舟水路で遊ぶ子供達

遊水館とその周りを囲む木舟水路▽

技術等の特徴と評価

植物浄化池において、藻類などの自然生物を利用した水質浄化法を初めて実用化し、生態系への配慮、省エネルギー化など多くの面で環境施策に大きく貢献したこと、及び運営面においても、公園の整備、管理、潟や生物の保護活動などに市民の参画を図っている点が評価される。

事業の概要と効果

福島潟は、豊栄市の南東部に位置する面積約200haの県内最大の潟湖である。潟の動植物は、約350種の植物と、220種の野鳥、豊富な昆虫が確認されている。特に、日本の希少水性植物「オニバス」の北限の自生地として、また国の天然記念物「オオヒシクイ」の飛来数全国一としても知られている。

本事業は、地域活性化の拠点と豊かな自然環境の保全との両立を目指すものとして進められ、水辺の休息広場・潟文化の森・自然学習園（計23ha）の3つのゾーンからなる。

・水辺の休息広場には、中央に円形の建物「遊水館」（屋内温水プール）があり、その周りを木舟水路が取り囲んでいる。水路（延長500m：平均水深0.6m）は、13基の水流機で水を循環させ、オゾン処理による浄化を行っている。

　かつての潟の主要な交通手段であった木舟やハサ木、小川、堀割、木橋等の風景を再現し、歴史、文化、風土を体感し伝承するための施設である。

・潟文化の森は、円形の地下1階・地上6階の建物「水の駅ビュー福島潟」があり、ここでは潟に生息する植物、昆虫、野鳥等の展示と潟内に設置されたテレビカメラにより潟内の映像、野鳥の鳴き声がリアルタイムに届けられ、自然とのふれあい、野鳥の観察には欠かせないシンボル施設である。

・自然学習園には、西側の高台にかつての潟端の民家を復元した、木造平屋建てヨシ葦屋根の休息施設「潟来亭」がある。屋根に使用したヨシは、全て潟内で刈り取ったものである。

　水際は県内産間伐採を用いた詰杭による護岸と、その先端に羽ばたくヒシクイを模した木製デッキがある。自然学習園の東端には4つの池があり、上流から礫間浄化池、植物浄化池、水生植物池、淡水魚池を配置し、各々の池は水路で結ばれるとともに潟より汲み上げられた水が浄化されて戻るシステムである。

整備事業が進むにつれ、市民の潟に対する関心も高まり、平成9年4月に「福島潟に市民の森を作る会」が水辺の休息広場で植樹祭を催し、参加者600人により高木140本、苗400本を植栽した。6月には市民の募金により、潟を愛する主婦が集う「雁わたる会」のメンバーがオオヒシクイの生態調査のため繁殖地ロシアへ派遣されるに至った。

また、これと平行して有識者を含めた潟に関心のある者が集う「ネットワーク福島潟」が結成され、自然生態園の植栽等の管理、ビュー福島潟の運営に積極的に参画することになった。

このように潟に対する市民の理解もよりいっそう深まり、小学校の授業にも潟の自然が取り上げられ、マスコミを通して自然への接し方、取組みが各地へ紹介・情報発信されるとともに訪れる人も多くなった。

受賞賛助会員　㈱本間組新潟営業所